817
109
1

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1

ガラス使用

甲

第七棚
一ノ二百十五

御觸書

天保集成

八十三

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 817-1

ガラス使用

東京都立図書館

旧幕府引継書

一 武士屋敷之部

一 町屋敷之部

一 諸普請作事并上水道其外家作之部

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1

ガラス使用

武士屋敷

一 寛政二戌年十二月

市場定奉行江
伺義浦領屋敷
中立添地之相願出
已降之添地之
未應之屋敷ニ而

宿家ニ者有之候ハヽ、添地ニ下ケ候
様仕度、可否ハ追而可申渡候

寛政三亥年二月

田安御門ヨリ外、茅葺植場囲有来通
囲ヨリ東南ヘ隔入込ニ而不囲所ハヽ方人家製法不建通道
通リ共ニ弐拾九坪余ヲ囲込ム
民部卿殿屋敷補ニ付進ム

右之通、此旨地面明次第急度可申越
候以上

寛政四子年四月

小普請組
筧野佐渡守支配
伊奈小三郎

御勘定奉行
松平信濃守

深川清住町屋敷之内是迄右衛門

有之以搗布之内弐千余ヲ以分右
搗布ニ仕居有仕ル家ハ為出手當今
不面更言不ル買家来ル至ル長屋ヲ義
右ニ意一元建ニ而
一馬喰町屋敷不残家ハ共ニ小菅
赤山共ニ不ル残家ハ共ニ皆上ル
右之通可申渡ル委細之儀ハ追而御定書ヲ以

市蕃儀ニ付御触書

右之趣浅野能登守渡ス右ノ通可申渡ル

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1

ガラス使用

寛政四子年七月

大目付ゟ

去ル廿一日類焼屋敷
場所取調方仰付候ニ付
屋敷周囲ゟ小屋掛ニ而
随分手軽ニ可申出旨

相渉ル者又ハ相違事
右之趣書附小川町籏本領屋敷有之
面々ニ可吉達旨
七月

享和二戌年三月

大目付ニ
居屋敷中屋敷ハ
堺数ニ所附ケ置候
当六月中迄ニ可差出且又屋敷替
等ハ勿論不遠屋敷改ニ

可相届旨承之上ハ
相成候様可右之御達ハ
右之趣可右相達ハ
三月

文化元子年十月

大目付江
屋敷并御預ケ之
向来絵図面ハ添可
右達ハ
十月

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 817-1
ガラス使用

文化五辰年十月

民部卿殿濱町屋敷ニ附大川端通
両国ニ相成候ニ付百一火災ニ付被遣
筈之処退ニ及候ニ付被下候
南小ニ非常ニ附ケ屋敷ニ附川端通り
建家相通ニ付積り之通申候

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1

ガラス使用

馬上ゟ者従来ゟ不吉成ル品ニ右ゟ通
お達ル品ニ相極候事ニ付急度可相守
旨被仰渡候ニ付
十月九日

文化六巳年三月
大目付
御目付
一 御度ニ付御普請ニ付百石以上
以下ゟ追徴銀
百石以下ゟ追徴銀
不届ニ付急度可申付旨
御書付ニ名前ゟ書出候ニ付
名前ゟ書出候

向屋敷名前を記し當四月中
市役所へ届可差出
但組支配ゟ名前を以
市役所へ奉行所ゟ相達
一書付を難去今場不申
役人お越ニ及候節可有之
一右書付差出以後代替役名改

但新規屋敷ニ候ハヽ領主お對智お有之
ハヽ其通市役所へ奉行ゟ相達
右ゟ触向ゟ可申達事

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1
ガラス使用

文政七申年七月

覚

新規屋敷願出候もの共之儀ハ根
元御勘定所ニ而吟味之上ニ而
其筋役人より御差図有之候ニ付
其都度〻願ニ不及勝手次第
場所見立相願ハ可致事

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1
ガラス使用

但父ゟ代ニ新規屋敷願未済之後
代替ニ又ゟ一軒小普請入再勤いたし候
其節ゟ新規家屋敷願可申出事

文政九戌年六月

大目付ゟ
屋敷ゟ内を町人ニ貸ニ成共ニ
可相成ニ而ハ
右ゟ通安永八亥年未触ニ而ハ
防剋禁ニ而ハ
可相成ニ而ハ
屋敷ゟ内を町人ニ貸ニ成共ニ
可相成ニ而ハ
防剋禁ニ而ハ
可相成ニ而ハ
右ゟ通安永八亥年未触ニ而ハ

お成屋敷地面之儀
町人おゐ貸置候
おゐても遠慮
候間可存其趣
右之通可被相觸候
六月

文政九戌年十二月

大目付
屋敷之儀町人おゐ貸置申間敷者
先達而相觸候処
可存其旨
右之趣可被相觸候

昌平坂学問所

十月

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1

ガラス使用

町屋鋪之

一天明九酉年正月

覚

町中ニ而家屋敷売買譲り候節ハ名主
いつ〻振舞不致候ニ而ハ不相済候
ハ勿論今以前ゟ之振舞多く町人共ゟ強而ハ出
相受ハ早速名主共仕方不届ニ候ゝ

向後負数を宗メ觸知らせいそ百手旨
可被
一分一合も百姓、牛馬ニ而ニ相定ル外ニ而ニ無
出シ来ル町ニ而ニも忌令返ス通セ仕事
一間ニ矢代金町役ニ而ニ請名ヲ以ニ報ス枚
数人組ニ金百疋ヲ町中家持壱人ニ徴ス
一連ヲ可申事

但右ニ負数より出シ来ル町ニ而ニも
忌令返ス通セ仕事
一右ニ外ニ而ニ相振舞等仕ル者ハ其家当
一御触ニ而ニ家ヲ町払ニ申付ル事
右ニ触置可相守ハ早竟名ヲ以ニ可答
但勝手仕候ニ而ニ向後ニ事ニ少成共ニ相加
又ニ振舞ニ而ニ相交ニ候ニ而ニ急度曲事

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 817-1
ガラス使用

一中村山氏旨名主方ゟ町中可觸事者也

寛永五年六月

覚

一近年町中法入用多相掛り屋敷賣買ス
節も町札等先年相觸ル分量ゟも
多ク賣出ス上非分ス名を有ス
不均成入用ゟ多ク町中ニ相掛ケル出
相変ル分無名主方ゟ今度中少ル共ス
有ス様ニ可申入用多ク云ス拵ス
ス一方ニ名主方組合相定中合ル共ゟ
有ス様ニ百姓ニ随テ自今急度吟味
可致ル旨中村ル役ス町内法入用ス
役ス毎ニ取ス名主方毎月相志ス組合
名主方立合立益ス入用ス相減ス不叶

入用之分ハ町内振面ニ地主方ニ家当方ニ
差出ル書付ニ押切印形ニテ入用
差出ス也ル者ニハ名主方ニテ印鑑
地主ニ差出ス者ニ名主ヲ押切印形ニテ
入用金差出申ス者ニハ自地ヲ
相対済家主方ニテ入用地ニ差出ス也
ル根ニ可致ル此添者ニ益ス入用相掛ス
ル名主ニ名ヲ書ル人組有之ル地ヲ
勿論町中ヨリ七中出ル
右之通ニ不洩様ニ七簡加者也
享保七寅年七月
右之通先年簡並ル年数相立ル方名ヲ
名人組方ニ致差加ル者ニ付又町中為簡加
ル旨右之証状ヲ七相守者也

酉
正月

寛政二戌年九月

此度町々地主方地代店賃上り高
書出差出し、外家屋敷潰ゟ相違も
自然ゟ見合ひ根相成ひ而ゟ
不届之事ゟ有之ひ海ゟ
差留ひ者ゟ
差遣り遂吟味可被仰ひ家屋敷潰ゟ

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1
ガラス使用

勿論家質手形名前書替未返或ハ
質権之儀ニ候ハヽ此条地之
不残根名之方より中受遣家質
名前書未返質主ニ而可致旨
先達而地之方名前書出置候書
遣候ハヽ右ニ付相渡し上地之方より
許ニ不及手形之名前より書替ニ而中出し

戌
九月十九日

寛政二戌年十二月

惣町

名主
地主
家主

当地之儀寺社方御法度之国より入来ル而

自由を争い出来事ニ而ハ御座候天明年来
米直段引上ケ候節ハ銘々救方ハ勿論ニ候得共
此節ハ米ニ限リ候ハ相場ハ何も来ル共及
困窮ハ勿論ニ候得ハ都而ニ而ハ諸色共ニ
候間大名困窮を始メ諸家共ニ京大坂を初メ
其ほか諸国ニ而も米穀有之候ハヽ江戸表
江廻米ニ而も諸色下直ニ相成候ハヽ江戸表
ニ而も米穀下直ニ相成候儀ニ付此節ハ格別
之御仕法ニ而ハ無之候間

一町入用減金七分通ヲ以町ニ永續ス
囲穀並積金ハ一歩地ヲ
増シ手取金ハ歩ヲ町入用ニ
ハ不同ニ有之候町中ニ
減ス候ヲ取ニ而ハ可申ハ金銀町入用
囲穀並積金ハ一歩通ヲ地ヲ
町入用ニ費用ヲ省キ右ヲ以非常ヲ備

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1
ガラス使用

なり〳〵山之内之儀ハ格式ニ而城ニも見〳〵山海之
絵図ニ地名ハ有之ニ而も海ニ者山も絵ニ不書
又地代店賃ハ引下ケ之儀ハ勿論ニ而も別而
別配ハ滞之分ハ猶更ニ而ハ無之ニ付
右之次第ニ而一郎ニ可成程ニも三
年上一旦ニ事を論候ニ而一同承伏ニ
手当金石国並ニハ無之ニ付
右之次第能〳〵承届可申聞候

但町入用ニ者家ヲ持ニ而ハ
無之時ニ入用ニ有之時も右ニ而ハ
可相弁ニ而ハ候得ニ入用ニ有之
ハ其節ニ者不相拘
可被勤候ハヽ右ニ而ハ
職ハ〳〵支ニ而ハ

為褒美とも申可
入用多相掛り地
増し候に及び
て訴出候儀
一体一統減書
減方之数も有
来意外も可
候雑之事にも
主法相立事に
有之に付早く
兼書割合之通
候条不加可
但町々に
取集し金高
国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1
ガラス使用

仕癖不直候ニ付右之地借店借
よふ向後為出申間敷事

一右積金未タ候ハ町ニ永續之儀相成
い候ニ付
公儀御御金ニ而町中ニ而右
積金ニ而加入場所ニ而ハ撰返ス業ニ
困窮致シ一年ニ候ハ

一非常之儀ニ相成い候可致い旨
格別之思年賦ニ一同困窮仕候ニ而
可申時ニ手當ニ而ハ常ニ業續言立成
ニ而ハ未濟ニ而ハ別濟ニ而ハ
候ニ付右之節ハ
但右積金ニ素地ニ而ハ
い旨濟ニ而ハ連ニ而相成い

地主方実ニ離之訳有之者ニ
付ニ上手時宜ニ応シ貸方又ハ相應ニ
合言見斗ニ而ハ致シ或ハ后借ニ
者ハ老年ニ而ハ妻ニ而ハ幼年ニ而ハ
父母ニ先ヒ可致方ニ而ハ飢ニ而ハ及者ニ
付ニ上手高ニ而ハ致シ
一右積金取集方ニ付名目ハ
積金言ニ應シ世話料相應ニ而受ヒ
一場末町ニ而ハ地主方ニ而ハ取金ニ而ハ
なるヘク出右ニ場所ニ寄より積金ニ
沙汰ニ不及ハ町法改ニ而ハ御ニ
手取金相場ニ引ニ積金ニ而七歩ニ
ニ出ハ多少ニ可論ニ而ニ
積金ニ而ハ地ニ而ハ事

大災等ニ付而も困窮ニ及候ニ付
右町ニおゐて御届出たし差加合成
永成下り候ニ而一躰積金ニ而利安
貸付ニ相成右利分ニ而積金ニ
町ニ而非常ニ付而ニ而相成右ニ可
成下り置右ニ付而ハ度右躰永續ニ
之法ニ付出ニ而非有候ニ付若惣町中ニ
同ニ而元相應ニ而志有ニ積金ニ加り度ニ
存ル者も有之ニ付而ハ時ニ臨手次第ニ
受ニ而ニ中出ル
右之通町中為御救不時ニ備ニ
相預ケ方ニ候ニ而ニ遠ニ
右ニ町方永續ニ基本ニ
積ニ中合ニ上町法ニ

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1

ガラス使用

文化三寅年六月

町觸

昭和四巳年之觸

先月九日類焼之場所ゟ年久敷町ゟ出

火ニ而家作之内自然ゟ往来之方江建出

し候ニ付相違通幅未治参

尺之間数ゟ者被

給器ニ引合不申候而も有之候相守い右も
當時建出シ以後ニも之年来之事故
是迄之儀も格別之事ニ而済とも以来
右様ニも致置候事ニ而ハ焼物町之
善悪致シ候ニ付相改往来之方ニ建出シ
不申候ニ致シ道幅未治候ニ付給器ニ相遠キ之
ニ致し候而ハ善悪取揃ひ難し候間致不相改

一往来之方ニ建出シ候ニ付而ハ
致有之候ニ付而ハ遂吟味候処可申分ハ無
出来候ニ付見分之節ハ相改ニ而ハ有之い
一前書之外先月九日類焼不致候町之
家作之内右類焼ニ而建出し場所ニ而ハ有之ニ付
是迄同様ニ右之通ニ而ハ有之候得共
善悪未致し候節ニ相改往来之方ニ

速出シ以テ相違ニ遂幅ホ法券給ヲ以テ通
相違ニ不相可致候旨ヲ以テ可致候旨ヲ
致シ前ノ百致不相改往来ニ方ニ速出シ
テ百モ手後致亜ル場所於有之ヲ至吟味
急度可申付ヲ者也又返ス事約所ヨリ
見届リホ百モ相改ニ可有之
一町ニ付テ問往来ヨ高費拘ホ百出ス日霞ホ
致シ高拘百出ス日夜往来ニ百漆ニ相成
出ホ未ニ前ホ致亜ル場所ニ於致混雑殊ニ猶モ不致
右ハ、致亜ル場所ニ有之候相改不拘ニ
能前ニ付テ仕来ニヒトモ猶モ不致往来ニ
高ヒ拘百出日霞ホ致ル候ホ難成事ニ
ル百モ非右ニ通不致ル百ホ高費難成
ル付テ往来ニ付テ猶出ス百モ上往来ニ

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1
ガラス使用

差添不相成根下致し
但急速之儀之節ハ
差出日限未致し
往来之添ニ不相成根下致し
前條之趣堅相守以来
若右之通相触し候を承知仕し近ニ而等閑
致置し場所も於有之ハ
急度可申付条
勿論家名之ハ人迄名ニ
以旨町中可触知ものも
子
六月
明和九辰年之触
町中家抱之門番抔ニ
浩奏之者数ニ至ル迄
給ニ引合不申候ハ

舊法之節右雜速出之て根て殺有之年
以前貢年相納候通り百姓類焼之
町之我家抔ハ焼除速出不申根可殺ハ
焼右之故不相用速出ハ所も有之候日
相知ハ〻急度七中分ハ
一ハ殺類焼町〻之内茅屋抔ハ我家抔ハ
場所ニ而茅之小屋掛ケ之通之事

ハ潰方ハ潰遠茅葺葉葺未ニ而本舊法
同根家抔ハ〻ハ潰ものも有之ハ潰之
茅葺葉葺之儀ハ後年迄ハ俵ハ雖國事ハ百
ハ俵ハ潰遠之ハ根て殺ハ旦本舊法殺
ハ者大除宜根〻家抔ハ俵ハ指別之事ニ
ハ潰方ハ潰見分宜為斗舊法殺ニハ俵ハ変而
殺百姓ハ勿論同造抔之俵ハ根ハ俵ハ根

可仕候

右之通類焼町々ゟ不及申ゟ町々不殘
可領知候
辰ノ月

右之領明和ノ巳年ノ内九辰年領ニ変
ノ地ニ芝車町ゟ出火ニ而類焼之町々ゟ逃
家ノ跡補理可申候ニ付右類焼之向ゟ勿論

類焼之町々ゟも決右領ニ而ハ無相違
明和年中為領知候ニ付来年ゟ経ノ巳ノ
令忘却ノ巳領ニ而ハ無相違庇ニ而出ノ
有之ニ付商物往還ニ障ノ候ニ付積置ノ候
勿論ノ上不残ニ而ハ急度用捨
可及沙汰候
寅ノ月

昌平坂

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1

ガラス使用

知新

上水道ヲ外官ヨリ請

天明九酉年正月

江戸町ニ組合道造或ハ橋普請並上水
樋掛修復ハ組合ヨリ出銀或ハ俵滞ル
向モ組有之就テハ先格ニモ有之事
事ニ付道造橋普請ヲ勿論上水ニ限リ
候ニ至リ其中ニハ差支

非常之為ニ付組合之面倒後ホ有之事ニ
候ニ付来ル二十心得違出張ホ無遅滞
相勤可被候且又組合辻番不残出張ホ無遅滞
筆限ニ無之相中付右ニ付出張ホ免除御
無遅滞相心得可申候辻番清廉
之者ニも清事等閑ニ無之相可申渡旨
町奉行ニも相達候旨右之趣可被相觸候

寛政元酉年十月

大川渡市業清水之介
立花吉近形監

初鹿野河内守
久世丹波守
坂部十市蔵

右之通被仰付候間可被得其意候也

阿部伊勢守

町奉行初廉野何内匠頭事

秋元但馬守

久世丹後守殿御用番

酒井

惠子諸向留守居共

御老中

御役所

被仰渡候

御触書

諸向へ御廻状之儀ニ付御差支之有之候ハヽ

其訳ヲ以留別紙

相違ニ候通右之

御触書

市用簡中等ニ

御差支之有之候ハヽ

其訳ヲ以留別紙

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1

ガラス使用

よろ仕立ハ二分摺ニ而市書清仕立ニ至り
家来ニ至ル迄ハ不及市勘定不植橋株梁ニ
定請有之人別ニ而ハ冥加仕掛
金ニ而割合掛リ合有相違ニ冥加ニ至る迄
市手形ハ用ニ至ル迄ハ根何ニ而も
惣而ニ掛リ合家来ニ夜服ニ而ハ外ニ而ハ逢
ニ而も着清手形ニ而ハ面々
用ニ掛リ合家来ニ夜服ニ而ハ外ニ而ハ逢

船ニ而ニ至ル迄市用外ニ而ニ失墜
至り候振舞ニ而ニ度ニ而ニ請事費ニ而ニ省キ
ニ而ニ候ハ用不相ニ而ニ振ニ而ニ至り候ハ
音物ニ而ニ贈ニ而ニ候ハ冥加ニ而ニ有之ニ而ニ
而ニ料理ニ而ニ菓子酒出ニ而ニ候
仕冥加ニ而ニ度ニ而ニ中ニ而ニ
右ニ而ニ通市手形ニ而ニ中ニ而ニ冥加ニ而ニ可

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1
ガラス使用

寛政元酉年十月

初席野河内守

久世丹後守

坂部十郎左衛門

立花左近将監

阿部伊勢守

右大川濱出雲守
至淨其意承合有之候
十月

秋元但馬守
仰付旨

寛政元酉年十一月

出羽守
惠而出雲守儀有之
候最初 帯刀
候中上有之甚候後右出雲守儀中退
候中上来之処
揖拔遣之節之出羽守
帯城内之候之通甚慶之中上

相達候儀ニ付御城先又ハ御城外ニ
而當番等場所ニおゐて御用障おゐ候ハ
ゝ其段不及申上ニ候得共御格別ニ麁忽
之儀ニおゐてハ其大小をいハず申上ニ及
可申候尤進もの無之候ハゝ其面ゟ細ニ
仕立ニおゐてハ不及候
右之通相心得可申候
十一月

相達候儀ニ付御城外ニ而當番等場所ニ而ハ

寛政二戌年二月

池田筑後守

江戸向中不洛川橋ゟ
勘七菱屋庄兵衛方迄白子屋
通油小路ニ而分屋敷
ゟ綾小路迄町並
ゟ綾小路迄

為試御書請取
老中勤定掛吟味被仰渡
候趣粗承知
候付而ハ留可申取扱
候間
寛政二酉年二月

八

町人ゟ橋際ゟ綱を外ニ分屋又ハ
見分願ゟ外見分ゟ先ゟ渡船等ニ
決被遣ゟ町入用ハ
下ゟ被仰渡ゟ橋ゟ綱ゟ
被差留候ニ而ハ不宜候粗一斉ゟ

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1

ガラス使用

寛政三年写

寛政三亥年四月

市勘定吟味役
市川斧次郎

市普請懸不出来ニ付普請奉行より何月何日出来之
筈ニ候哉之書上之節
之旨書上候可申哉中山市普請懸休
之候義ニ候哉其節ニ至候ハヽ其旨申越候ハヽ

和ゝ金百両ニ而買取
請負之もの但松ノ唱ハ
此処ニ而取扱之而ゝ能ゝ心得ニ申ハ

二月廿六日

寛政三亥年三月

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1　　ガラス使用

寛政三亥年十一月

大目付ゟ

神田玉川支上水組合出会之儀ニ付
尋書ゟ指書請書紛失ニ付御届書
組合有ゟ多ゟ組合年番ニ而預置
指置請奉行所ゟ差出ニ而編綴ゟ

出金延滞無之様可致候旨被仰渡
面々ニ出金ニ差支候ニ付而ハ
右ニ被向ニ而有志相達ス
十一月

寛政四子年十月

柳生主膳正
佐橋長門守

伊奈小三郎馬喰町ニ屋敷有渡候代
屋舗ニ而唱久世丹後守支配市代官手
但居候不向ニ而ハ達ニ候ニ而ハ可有

十両以上之帝家ハ長屋より以
又ハ右等相用以而ハ入用積りおゐて
可申上以委細之儀ハ毎渡之節

寛政四子年八月

大目付
今度新規之跡番ハ被
仰付候ニ付而ハ従前々小姓番
之通ニ被
仰付候哉又ハ格別之
思召を以被
仰付候哉不審ニ付伺之趣
書取ニ仕同道仕候
以上

八月

見分ニ不拘年貢ニ
先年ニ拘ニ
右ニ準シ
仮年中ニ
仮年中ニ而ニ
中ニ米麦ニ而ニ
成程ニ〳〵可申
生垣ニ而ニ
ニ而ニ
ニ而ニ

寛政四子年十一月

市勘定奉行ゟ

都而市中非常之節ハ町方ゟ橋市御役被
申渡候ニ付、左之通相心得可申候

一、非常之節、町方ゟ書面を以
申達候ハヽ、其向ゟより書面を以
可申達候、尤口上ニ而申達候ハヽ、
其旨を以可申達候、若又書面ニ而
申達候ハヽ、其旨を以可申達候、
此間之役ニ候ハヽ、其向ゟより書

いさゝ相違ニ付何卒新規ニ被
ゝ通書面ニ支配限ニ而出ニ中ニ而被
新規ニ被ゝ候ニ而ハ御
元斗ニ相中渡置ニ而
分ニ而御作業ニ而行
而庭掃向且
御靈屋向ニ而御

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1

ガラス使用

御条諸条ニ条ニ
而御作業ニ而行
右ゝ趣向ゝ右ニ
十一月
右ゝ触大月ニ付而

寛政六寅年正月

大目付

此度出火ニ付類焼之面々居屋敷
普請ニ取掛候節持参之絵図面之
通ニ而不苦候哉
尤類焼之内ニ御先手組之屋敷大造之
向も有之候ニ付
右之趣御老中江相伺候処
尤ニ付其通取計候様申渡

寛政八辰年六月

一 諸国御料所之儀、向後勘定奉行ニ
可被相達候
右之通被仰渡候間、可被相觸候
以上

一 諸城内櫓、塀ニ而も石垣ニ而も可被相觸候
右之外、城郭ニ候ハヽ、櫓塀ニ而も石垣ニ而も
可被相觸候

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1

ガラス使用

所城中之後も
有之山右之杭損之為之宜山潛
碎場之不所所要害之処も有之
山官以来之大城市城市有形之通杭柱
一小官垂之石之寸法之処
不残石乍出来山場不レ得レ止修復
之節迄之一小官垂之石之寸法之処
山事

但都而一小官垂石之寸法中箭
矢有之官之官営山場不レ得レ止
其節之評議可有之事

寛政十年辛九月

市勘定吟味役被仰付候節、
都而市勘定之事ハ
市奉行支配市役所ニ而取扱候得共、
吟味いたし方可伺出ハ第一ニ而下吟味
いたし方可伺由ニ而中ニハ不伺届ニ
可有之事ニ候哉、勿論本途吟味ニ

高下を吟味致し候事に候得共
主役方何れと不相当に申立候者
負数く遣ひ有之類ひを以得と御礼
左保方おゐても勘弁有之ゟ言立く
方ゟも中分に方に評決いたし可差出
此度出張事
政令中渡に付小普請奉行ゟ
不都合に付く相伺可申旨に付不
有之時如何と存候もの有之ゟ同
右相ゟ雖中相ゟ支配向く者ゟ
私立に付ゟ都ゟ不差出ゟ筋有之ゟ
ゟも雖中に有業ゟ
甚難を過不中に相伺可申候
九月十六日

寛政十年辛九月

市場定書

惣而防書猶市修復不可用近年を
早く及破損ゟ場所も有之候ハ修復ハ
ゝ篇ゝ仕掛悪敷改不申届之都を
不及申候ハ用捨のミを捨ゝ

過今〻引方中村以下有〻名ヲ
保方ヨリ〻〻差添ニ而
手後ニ〻仕業ヲ以吟味〻上ニ而
より相急〻引方可申付ヲ
当座〻成ル拘り始終
差引方ヨリ中村棟梁頭人ヲ能成
せ〻免ス為〻仕方ヨリ有〻ハ名ヲ
消止見通〻以前ニ〻冒ス〻雖中
ニ者破壊ヲ以不益ニ付ル
事モ早急ニ動ヲ〻ル而
以ヲ〻事能〻ヲ用ヒ支配向〻
ニ而ハ保方宜敷
可被ニ名指ヲ可申事ヲ厳〻
下用ニ来ル新ニ免許仕候後

手當ヶ可致ニ付
可申保之外成丈
をよひ雑費延時ニ
申付根可申心得
まゝさのみ年数を経
候修復ニ中根ニ
ま夛可申渡大概二十年
相保ニ根可有之候
築度ニ元結不及大破根可取斗
右之趣ヲ先達而
候ニ而潰ニ
候ニ付用
候ハ、永久之為ニ
失墜可有之事ニ
ニ候ニ付勤功ニ

いれ候儀決而不致候

右之通申付筆奉行小普請筆頭相達

候間可心得其意候

文化三寅年三月

大目付

此度之火災武家町方共罹候及類焼候分未届分者勿論類焼

罹候節可石以上之面々表向之外

窺之通各別其節を後之書付

可申付候

一家作之儀、前々より手狭ニ
可申付候、尤大造之儀
ハ用捨いたし、無拠分限より
可申付候、

一万石以下之面々ニ而、手狭ニ
成候ハヽ、其身之
勝手を以、
願之通

文政十二丑年

市場定之事

一度ゝ火災ニ付ゐい定式市會諸

市修復ゐゝ後ゐ後御渕ゟ受ケ申場所

用場見申ゝ鳴物等ハ暫之可控

勿論當時ゟ掛リ所ゟ出ゐい指別ゝ後

未完掛鳴不ㇾ見ㇾ斗
先相扣ㇾ振可ㇾ致ㇾ
右之通出勤掌ㇾ事ㇾ
中渡ㇾ旨可ㇾ洩其意ㇾ

天保二卯年三月

諸向江普請済用相勤ㇾ役ㇾ之ものゟ
出褒美之被ㇾ遣先ゟ勤日數江入用
金高ゟ見合ㇾ遣ㇾ江褒美被ㇾ下ㇾ振合ゟ
江入用金高多分之筋ゟ自然被ㇾ下物ゟ
取紙ニ下ㇾ振ニ有之ㇾ得ゟ之ㇾ而ゟ

仕入用減ル方出精致シ候ニ付已来給金
勤日数仕入用金高而已ニ而ハ不申候
其時々の模様ニ寄仕廉義ニ振合等ニ
遣ひ候ニ付何卒可有之候
仕場不ニ先格ニ不申候時々ニ伺
恰好ニ仕入用減ル方ニ付合得ニ勘弁

致仕廉ニ相願ニ振可申候ニ付
都而ニ普請不致初ニ仕入用積目論見金高ニ
不相成ニ候ニ付吟味致シニ付ニ論
ニ事ニハ得ニ於ニ勘弁ニ可成丈ケ
仕入用ニ取調可申ニ付向より相伺ニ
仕普請仕入用積ニ相成候初
目論見ニ節仕入用高相減ニ振可申

取計ひ事

天保五午年二月

覚

一度ゝ火災ゝ外ゝ定式出差儀
一御役被ゝ仰渡ゝ候御溜之間ゝ可申場所ゝ
用諭覚中ゝ場所ゝ外ゝ諸向ゝ掛合ゝ
勿論當時之通ゝ取扱ゝ

未取急場の之儀斗
先相扣山根可差越事
右之通被 仰渡書付を以被
申達候間可被得其意候事

天保六未年四月

勘定奉行

勘定吟味役

御普請役

御作事方

御小普請方

御細工所

御賄所

御膳所

御畳方

御賄頭

御広敷

御台所

御次

御右筆

御医師

御儒者

御表坊主

御数寄屋坊主

御錠口

御坊主

御小人目付

御徒目付

御小人

御徒

御鳥見

御鷹匠

御鷹匠同心

御鉄砲方

御鉄砲同心

御弓方

御弓同心

御馬方

御馬同心

御小人頭

御小人組頭

御小人

御賄組頭

御賄方

御賄同心

御膳奉行

御膳所同心

御畳奉行

御畳同心

御賄頭

御賄組頭

御賄方

御賄同心

御広敷用人

御広敷番頭

御広敷番之頭

御広敷番之者

御台所用人

御次番頭

御次番之頭

御次番之者

御右筆組頭

御右筆

御右筆見習

御医師

御儒者

御表坊主

御数寄屋坊主

御錠口

御坊主

御小人目付

御徒目付

御小人

御徒

御鳥見

御鷹匠

御鷹匠同心

御鉄砲方

御鉄砲同心

御弓方

御弓同心

御馬方

御馬同心

御小人頭

御小人組頭

御小人

御賄組頭

御賄方

御賄同心

御膳奉行

御膳所同心

御畳奉行

御畳同心

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1

ガラス使用

伏柄ニ至ル迄浮木ヲ以三山ヲ初引續
以西以俵樓不多以其役ヲ心ヲ用事実
行屆ク以取絡ニモ保方宜敷括ニモ
可拘候以俵樓有之ハ共ニ見附斗ニ而
粂略ニ候有之ハ而ヲ百ニモ不及ニ而ヲ
可有之以場不拘以崇敬ニモ拘リハ速一概ニ
以手重ニ〻〻ス候ハ浮ヲ宜ヲ而已ニモ有之

百姓実以俵樓ヲ期ニ至リハ候ヲ格別
以御崇敬ヲ名義ニ引附或ヲ有之ハ俵樓
所ホ見又手重ヲ方ニ成行ハ弊モ粗ホ哉
右ホ入念相方行屆ハク左様ニモ有之
百姓平竟ヲ不及大破様ニ至ル而絡被又
以俵樓ヲ候ヲ以入用ホ掛ニ至ル才一ヲ保方
置手被ヲ候ヲ拾遠吟味ハ候当様ニ至ル迄ヲ

御宗教之儀ニも御座候ハヽ
早竟其役ニ而不磯方ニも心弛み勝ニ
流ニ而ハより弊も生ハ候ハ前より出作事方
小普請方ニ而ハ締方之儀ニ候ハヽ御達ハ候共
有之ハ将た年月を経等閑ニ而ハ成ハ候も
有之ニ付ニ而ハ又今更改る相達
ハ候も有之不宜事を仕癖を引もなま

其弊を改革実ニ
ハヽ附屬之役ニ実意ニ応答を当り
御万石を存込一時之恥ニ不拘害を除
古法宜ニ引戻し出ニ而ハ締附ハ候を新ニ設
存意を加へ其中ニ而ハ御達ハ軽ニ
ハ勘定所引合も可有之事ニハ当ニ倹約之
趣意相違之変動無いさゝ女髪髷中淡

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1
ガラス使用

評被拘木和連ハ芭も好
可ル致ハ但又ハ勘定所ニ而
ハ入用筋吟味いたし
神室方掛リ ハ修復不
法向ニ而ハ雷ニも可和成ハ
添奉行支配向ハ方ニ者も
御為筋ニ存込不宜事ニ仕癖をも
改

正路ニ勤ハ相精ニ可ル申渡ハ事

未ノ月

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1

ガラス使用

817
109
1

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 817-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1

ガラス使用